

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

事例検討 認知症の緩和ケア

グループワーク

症例:末期アルツハイマー型認知症

物忘れ
出現



9年後

10年
後1月

10年後
10月

《経過の続き》

- X+9年の初めころから、尿失禁、便秘が出現、歩行障害も進行し、大きな錠剤が服用しにくくなってきた。
- X+10年1月末、室内で転倒後、起立歩行は困難となり、訪問看護と訪問診療を開始し、腰部痛が改善した後、認知症専門デイサービスを再開した。
- X+10年10月、急性腎盂炎を発症、B病院に入院し、抗菌剤治療を行い、改善し、11月に退院した。

症例：末期アルツハイマー型認知症

物忘れ
出現



11年後
2月

12年後
9月

- X+11年2月、誤嚥性肺炎を発症し、再度B病院に入院し、抗生剤治療を受け、3月中旬に退院した。このころには、BPSDは落ち着き、誤嚥性肺炎も発症したため、ジプレキサ®2.5mgを中止した。
- X+12年9月に、誤嚥性肺炎発症、自宅での抗菌剤の静脈投与と末梢輸液、訪問看護での体位ドレナージと肺理学療法（スクイーミング）で肺炎は改善した。肺炎治癒後、簡易嚥下誘発試験（S-SPT）では、嚥下反射は低下をしているも、まだ経口摂取が可能なレベルであった。

症例：末期アルツハイマー型認知症

物忘れ
出現



13年後
1月

- X+13年1月7日、3度目の肺炎を発症、SPO2は85%（Room Air下）で呼吸不全を併っていたため、B病院に入院。2月28日に退院するも、翌日に再び38.5°Cの発熱を認めた。本人の表情は硬く、呼吸回数は1分間に24回、同日の採血で、CRP13.07mg/dl、白血球10200/mm³（左方移動+）で、両肺に肺雑音を認め、肺炎の再燃と診断した。

グループワーク2

- Aさんの末期の治療とケアの方針について、どのように意思決定を支援しますか？
- また、Aさんの苦痛に対して、どのような対処を行いますか？

《ディスカッションのガイド》

何がご本人の利益(幸せ)かということを中心に、全員が納得できるような話し合いとするためにはどのようにしたらよいでしょうか？

司会・発表：訪問看護師
書記：ケアマネジャー